

ちいきの大学

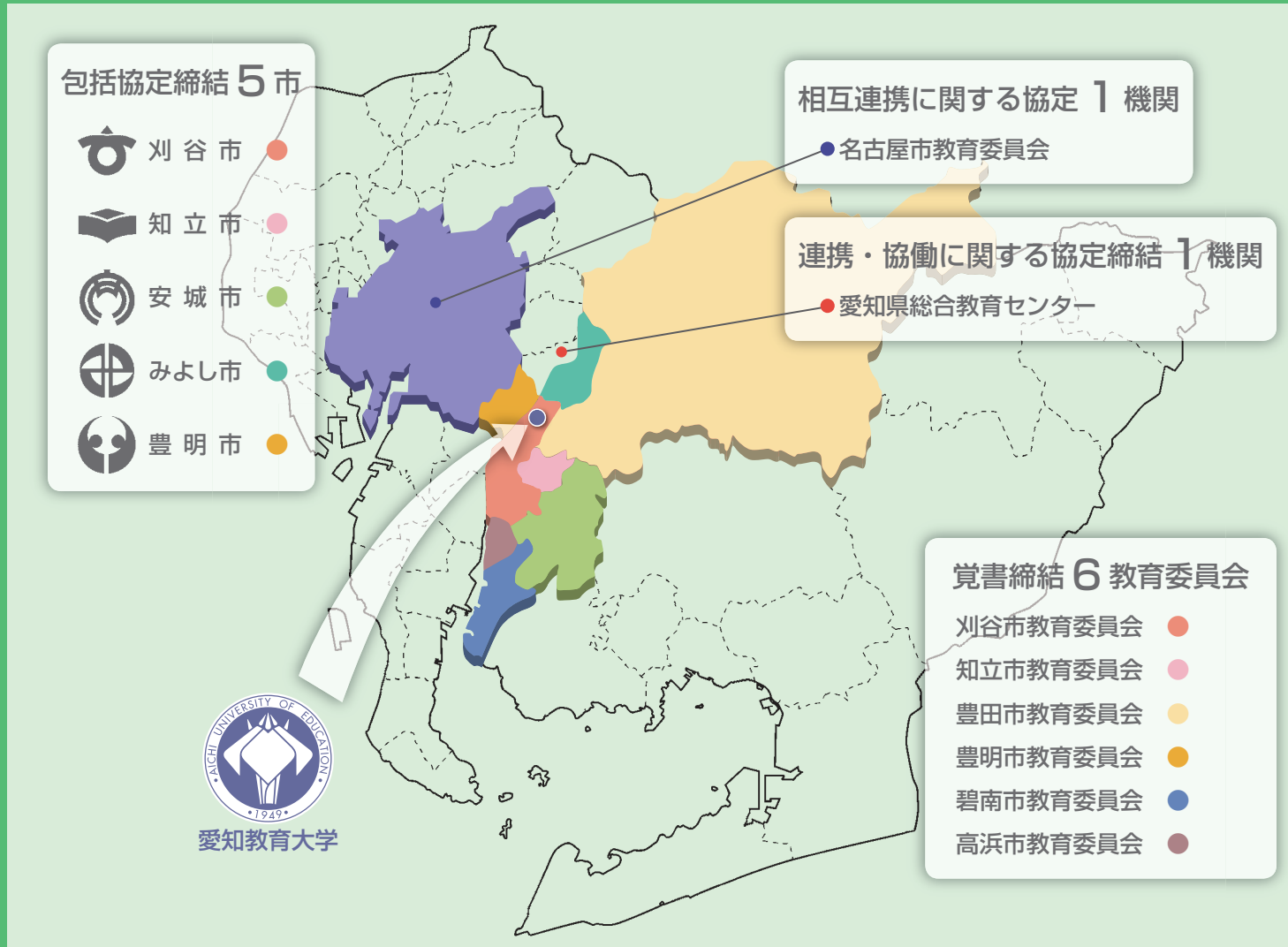


■ Contents

- 名古屋市教育委員会との連携協定締結
- 高校訪問授業
- 連携公開講座
- 洲原池の池もみ



愛知教育大学は教育界をはじめ広く社会と連携し、社会からの要請に応じて、教育研究の成果を還元し、社会の発展に貢献します。



ちいきの大学をめざして

地域連携センター長 白井 正康

この秋に新たな教育未来館が完成し、ICT教育の充実や教員の高度化をめざした学習環境が加わりました。新たな歴史の始まりが予感されます。過去から未来へと、はばたく大学へ更なる発展が期待されます。さて、「グローバル」というマーケティング用語が、国際会議や企業戦略等でよく使われるようになってきました。この言葉は、グローバルとローカルを掛けた造語であり、地球規模の視野で考え、地域で行動するという考え方です。身近な例として、外国人児童生徒教育への支援やユネスコのESD教育等を挙げるすることができます。地域の特性を活かし、地域の教育課題をグローバルな視点でローカルな課題として解決していく。これが、地域の活性化や地域の教育支援につながっていくように感じます。地域に愛される大学、地域のために貢献できる大学、地域とともに成長できる大学をめざしていきたいと願っております。皆様方のご支援とご協力をお願いいたします。

名古屋市教育委員会との連携協定締結

2014年7月17日(木)、名古屋市役所において、本学と名古屋市教育委員会との相互連携に関する協定調印式が行われ、後藤ひとみ学長と下田一幸教育長が協定書に署名しました。

本学では、これまで近隣の6市教育委員会と連携協定に関する覚書を締結しており、今回で、7件目の教育委員会との連携に関する協定等の締結となります。

下田教育長から「愛知教育大学との連携により、教員の資質・能力の向上を図ることができればと願っています。」とのあいさつを受け、後藤学長から、「教育委員会の後押しで日常的に学生が学ぶ場を提供して下さる。その御支援をいただくことが非常に大きいと思います。」と話され、調印式を終えました。



本学と名古屋市教育委員会とは、これまで、ふれあいフレンド・土曜サポーターなどへの学生の派遣、教員研修への教員派遣、連携公開講座の実施等、さまざまな連携を図ってきたところですが、相互の人的・知的資源の交流を図り、多様な分野で協力していくことを目的とした本協定の締結により、組織的な相互連携の推進が期待されます。

連携の協定事項は

- (1) 教科教育等の充実・推進に関すること
- (2) 教員の資質・能力の向上に関すること
- (3) 学生の実践的教育分野に関すること
- (4) 生涯学習の推進に関すること

などがあげられている。

なお、本協定による個別事案の具現化等については、双方の関係者で構成する連携推進協議会で検討していくこととしています。



高校訪問授業

本学では、高大連携の一つの形として、大学で実際に行われている講義を身近に体験することで、高校生の大学に対する理解を深め、進学意欲を高めるとともに今後の学習意欲を喚起することを目標に年間約30件の高校訪問授業を実施しています。



平成26年度は、本学の教員が愛知県内26の高等学校へ出かけて、約1500名の高校生に大学の模擬授業を体験していただきました。

訪問先の内訳は、次のとおりです。

愛知県内の高等学校 26校

〔地区別〕

三河地区 15校、尾張地区 5校、
名古屋地区 4校、知多地区 2校

〔公立／私立〕

県立高校 23校、私立高校 3校

講師陣の専門は多岐にわたり、誰でも知っている対象を新しい理論や手法で容易なことばを使って解説したり、また同じ対象を多くの視点や観点から理解したり、普段の高校での授業では聞けない授業を開講しています。

6月5日には、足助高等学校にて南極を対象として理科教育講座の戸田茂教授により、科学・ものづくり・環境問題・生物多様性・医療・法律など、多くの視点からの授業が開講され、進路の一助になったと思われます。



来年度も、30校程度の高等学校で高校訪問授業を計画する予定です。実施時期は、毎年6月1日～11月上旬の間で、受付期間としては、毎年4月1日～8月31日を設定しています。実施希望日の2ヶ月前までに研究連携課社会連携係(0566-26-2129)へお申し込みください。

高校訪問授業実施要項

<http://www.aichi-edu.ac.jp/renkei/area/sham.html>

連携公開講座

愛知教育大学は近隣各市と締結した包括協定及び教育委員会との覚え書きに基づき、「各市と大学との連携公開講座」を開設しています。平成26年度は、市民の皆様への生涯学習の機会の充実を目的として、刈谷市・知立市・豊明市・安城市・碧南市・高浜市・みよし市において大学連携公開講座を15講座開設しました。

豊明市との連携公開講座は、2014年7月26日と27日の9時30分から、「日本固有の新種ナガバノイシモチソウの保全活動の意義と生物多様性」というタイトルで保護地での観察を交えて行いました。

この講座は、渡邊幹男教授が講師を務めました。講座には6名の参加申し込みがありました。



豊明市に生育するナガバノイシモチソウは、絶滅危惧種で愛知県の希少種にも指定されている食虫植物です。

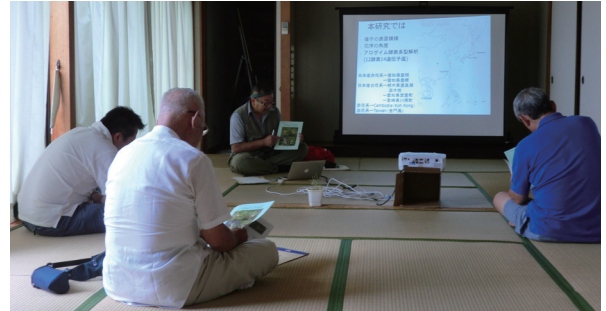
日本産のナガバノイシモチソウについては、台湾およびカンボジア産の種と遺伝的および花および種子の表面模様等の形態的再調査を行った結果、赤・白花それぞれが本来の *Drosera indica* L とは異なり日本固有の新種であることが判明しました。赤花の学名は、長年この種の保護活動を行ってきた豊明市の名前を冠し、*Drosera toyoakensis* としました。



講座では、生物多様性をキーワードに話を進めました。具体的に1日目は、豊明に生育する赤花のナガバノイシモチソウが新種と判断した経緯と愛知県に生育するその他の食虫植物について話をしました。

さらに現地では、豊明にのみ生育するゴマクサや食虫植物のミミカキグサの仲間や、トウカイコモウセンゴケを観察しました。特に食虫植物については、その虫の捕獲方法について説明をしました。2日目は湿地に生育する植物の保全方法について紹介しました。

講座の参加者からは、自分たちの住んでいるこの豊明市にこのような貴重な植物が生育していることに驚いたという感想がありました。



2014年10月4日(土) 13時30分より、安城市文化センターにおいて安城市との連携公開講座として「環境科学と日常生活の関わり」というタイトルで公開講座を開講しました。この講座は、稲毛正彦教授が講師を務めました。参加者数は13名でした。

気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の評価報告書などから、気候変動や地球温暖化のような環境問題には人類の活動が直接的に関与していることが明らかとなっています。今回の公開講座では、温室効果の原理を説明し、地球温暖化を防止するために化石燃料から再生可能エネルギーへのエネルギーシフトを行うことが必要であることを解説しました。そして、われわれの日常生活においてどのようなことに留意すべきかということに参加者と一緒に考えました。

会場からは太陽エネルギー利用の可能性や「世代間の公平」の意義、現実にバイオマス発電や風力発電で持ち上がっている課題などについて質問が出され、それらについて議論を行いました。短時間ではありましたが、今回の講座を通して低炭素社会実現の必要性について共通理解が得られたものと期待しています。

本学では、毎年大学の特色を活かした一般向けの公開講座、現職教員向けの公開講座、現職教員を対象とした免許法認定公開講座、名古屋市教育委員会との大学連携講座、近隣市(刈谷、知立、豊明、安城、碧南、高浜、みよしの各市)との連携公開講座、豊田市との共催公開講座を開設しています。平成26年度は、これらの講座について年間を通して40講座を開設し、延べ約1250名の方々に受講いただきました。各講座の内訳は、次のとおりです。

(一般対象) 本学主催公開講座・名古屋市教育委員会との連携講座・各市との連携及び共催による公開講座・豊田市との共催公開講座

(一般・教員対象) 発達障害者の支援者専門性公開講座(教員対象) 特別支援学校教諭免許状取得のための免許法認定公開講座・養護教諭専修免許状取得のための免許法認定公開講座・その他の専門性公開講座

来年度の公開講座については、現在、学内で調整中です。詳細については、本学ホームページにてお知らせします。

洲原池の池もみ

2014年11月2日(日)に、愛知教育大学に隣接する洲原池で32年ぶりの池もみが実施されました。主催は井ヶ谷町内会で、共催に愛知教育大学、後援に刈谷市で行われました。当日は、前日からの雨もやみ曇りでした。10時30分から開会式が行われ、地区長が池もみを行う経緯を説明しました。愛知教育大学からは白井・白石両理事が式に参加し、白井理事が大学を代表して挨拶をしました。



池もみへの参加者は、愛知教育大学の渡邊幹男教授から池に入る前に生物多様性と池もみの意義や注意事項説明がありました。そして11時から池もみが開始されました。池もみは午後2時まで行われ、午後からは後藤ひとみ学長も見学されました。参加者は井ヶ谷地区(当日の役員を除く)から約100名、その他一般市民が約50名参加しました。愛知教育大学からも約150名の学生が、池もみから生物多様性を学ぶ体験をしました。



池もみとは、池の水を抜いて池の中に生息する魚類を捕まえる活動を行うものです。この池もみの実施にあわせ愛知教育大学では、外来種、希少種の現状調査を行い、現在の生物多様性の度合いを評価する活動を行いました。主な目的は、ため池及び周辺樹林地等の保全、外来種の調査及び駆除、水質と生態系へ影響調査です。

またこの池もみは、「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業」の補助を受けて活動を行いました。

当日及び事前調査において捕獲された魚類・は虫類のほとんどが外来種でした。カメはほとんどがミシシippアカミミガメであり、在来種であるスッポンやニホンイシガメは数匹しか捕獲されませんでした。魚類は外来種として、コイ、ライギョ、ブルーギル、モツゴ(雑種化している可能性がある種)が、他からの移入種としては、ヘラブナが捕獲されました。在来種として、ウナギ、ナマズ、マサゴハゼ、キンブナ、ギンブナ、テナガエビ、ヌマエビ等が捕獲されました。



魚類では、ブラックバスやブルーギルが多数生息していると予想されましたが、大型の魚類はコイが多数を占めていました。現在コイは、外来種とされています。身近な洲原池でも、外来種による生態系の影響がでていることがわかった池もみでした。そして、大量のコイがトラックで運ばれていく様子に、参加者から驚きの声があがりました。捕獲されたコイの一部は、大学の図書館前の池で保管されています。当日は、捕獲されたカメや魚類を、水槽等に入れて展示し、その説明を理科教育講座生物領域の学生が担当しました。



洲原池の生態系を守ろう 池もみ大作戦!

池もみって何? ①本池を掃除、②生き物の捕獲、③乾燥と分類、④池干し

洲原池の外来生物

この2種類は、厳正な外来生物として、注意喚起を要するおそれがある外来種に指定されています!

生物多様性と池もみ

生物多様性とは、種、種間、生態系、遺伝子、個体の多様性を指します。

池もみの時に気をつけること

- 池に入る際は、靴を脱ぎ履きし、池に靴を落とさないように注意してください。
- ヘビやハチを捕まったら、スタッフに連絡してください。